

各部門の活動

当事業団は、その設立趣意に基づき、一般人を対象とした健診活動と診療活動、ならびに健康啓蒙のための各種セミナー活動と医学助成を主軸として運営されている。

当健診センターは、日本病院会の日本人間ドック学会ならびに日本総合健診医学会の主宰する健診施設機能評価に基づく優良施設の認定を受け、人間ドック認定医が健診にあたっている。健診データはすべてコンピュータ処理されているため経年変化がわかりやすく、人間ドック認定医および専門医による的確なコメントをつけて、受診者に見やすい健康診断記録を届けている。また、所定の検査項目以外にも、動脈硬化、がんを含めた生活習慣病の予防と早期発見に役立つオプション検査・セットも多くの方に利用していただいている。

当診療所については、内科、婦人科、乳腺外科、神経内科、および消化管内視鏡検査ならびに循環器検査を中心に、専門医が診療を行っている。入社健診、一般健診ならびに新宿区・中野区健診とその再検査、精密検査にも対応している。画像検査については、超音波検査とともにCT検査を行い、健診における早期発見、ならびに診療における内科、婦人科の病気の精密検査に効果をあげている。また、胸部・胃部X線、胃および大腸内視鏡検査、CT、腹部エコー、頸動脈エコー、マンモグラフィそして眼底検査は、すべてデジタル画像化され、迅速かつ正確な診断と受診者への説明に役立っている。

公益事業の一環として、都民の方々の健康増進と医療への貢献のために、当事業団あるいは外部の著名な先生を講師とした生活習慣病関連の講演会、医学研究助成、新聞や雑誌・会報誌等の印刷物を用いた生活習慣病撲滅のための広報活動を行い、好評を得ている。

委員会は、事故防止委員会、薬事委員会、安全衛生・環境整備委員会、研究・研修・図書委員会により構成され、各委員会は毎月開催されている。医療の質の向上と安全性の確保、日常業務の効率化等の諸問題に対して活発な討議を行っている。個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づき研修会や広報を適時行い、全職員に周知徹底を図っている。主な委員会のこの1年間の活動状況は以下のとおりである。

事故防止委員会

1. 当診療所におけるインシデント・アクシデントレポート報告に対する対策

今年度のアクシデントは例年並みの11件、インシデントは例年（約10件）より少ない7件であった。去年多かった5の治療処置が今年は少なくなった。特に採血時の痛み、痺れは昨年のおお半に8件集中して起こり長期間のフォローが必要なアクシデントもあったが、その後の対策で検査技師への注意喚起や受診者に対する掲示物や事故後の対策を整備したなどの対策が良かったのか、去年の後半からは少なくなり、今期は軽度の痛みが1件のみとなった。引き続き注意する必要がある。

その代わり数年前までは報告がなかったバリウムの誤嚥が去年2例で、今期も数件続けて起

こった。誤嚥を防ぐ飲み方を掲示し、誤嚥しそうな人を注意していたが、誤嚥しそうな人でも起こった。起こったときの受診者への説明文を作り、すぐにハフティングやタッピングを行うことも実施している。

今期はレベル3以上の身体に影響を及ぼすような重大なアクシデントはなかった。

	元年度			30年度	29年度	28年度	27年度
	アクシデント	インシデント	内容	アクシデント	アクシデント	アクシデント	アクシデント
1. 検査健診項目	4	0	検査漏れ・項目外実施	3	6	6	4
2. データ管理	4	3	記載入力ミス・転記用紙紛失	3	3	4	2
3. 個人情報管理	0	1	カルテ間違い	0	0	2	1
4. 機器管理 トラブル	0	0		0	0	2	0
5. 治療処置	0	3	採血1・バリウム誤嚥 数件	8	2	1	2
6. 転倒転落	0	0		0	0	0	0
7. その他	3	0	運用認識・疑病名・会 社請求	0	1	0	1
計	11件	7件		14件	12件	15件	10件

2. 医療機関における事例情報共有

医療事故調査制度の提言「大腸内視鏡検査等の前処置に係る死亡事例の分析」や、日本医療機能評価機構の医療安全情報「薬剤の中止の遅れによる手術・検査の延期」「病理診断報告書の確認忘れー上部消化管内視鏡検査ー」「鎮静に使用する注射薬の誤投与」「立位でのグリセリン浣腸による直腸損傷」「徐放性製剤の粉碎投与」などを報告し、関連部署に注意を喚起した。

3. 令和2年1月の職員研修会での啓蒙・教育活動

内容 総論 事故分類・事件事例の解析（経年変化）、イントラ報告書の活用
新規感染症対応時のフローチャート
健診事務 契約更改の入力漏れ、予約時入力ミス、当日入力ミス・記載漏れ
診療事務 保険証返却間違い、会社請求間違い
保健 オーダー漏れ・間違い
放射線 バリウム誤嚥
臨床検査 採血時トラブル
看護 CT造影剤の副作用
医局 内視鏡施行後脳梗塞、造影剤注射によるコンパートメント症候群

また「事故防止の要点と対策」を繰り返し部内で共有するよう求めた。

4. COVID-19の情報共有および対策の実施

令和2年に入って1月から委員会では、COVID-19の情報と当診療所での対策について情報交換し、所長会や対策会議へとつなげていった。次年度はCOVID-19感染対策を含め、通常とは異なった業務形態時における事故防止・感染防止について実施検討していきたい。

薬事委員会

1. 新規申請について審議決定した。1件採用した。

ゾルトファイ配合注 フレックスタッチ

2. ワクチンの供給状況

①麻疹、風疹、水痘、おたふくかぜワクチン

MR混合、水痘、おたふくかぜワクチン：入手可能

風疹ワクチンのメーカーによる出荷制限が解除され、発注できるようになった。これにより、風疹ワクチン単体の接種も可能となったので、自費で接種を希望される方にはご案内できる。

麻疹ワクチンの単体はまだ解除されていない。

現在公費で抗体検査が行われている「風しん第5期の定期接種」はMR混合ワクチンを使用することになっている。

②B型肝炎ワクチン

採用していたビームゲンは、令和2年9月前後に製造ラインのメンテナンスのため、供給量が減る予定。ヘプタバックスIIの製造が中止されたため10月以降に供給できなくなり、供給再開は早くとも令和2年半ばとなる予定。

厚労省は「3回接種を同一製剤で行うことが望ましいが、両社のワクチンを組み合わせて接種した場合の互換性は既に確認済みである」としている。

患者さんが接種希望される場合は、製造メーカーの異なるワクチンの組み合わせになる場合もある。

③インフルエンザワクチン

今年度も11月第4週～5週にかけてワクチン不足となったが、当院では在庫不足とならずに接種を受け付けられた。12月は流通が改善され、ワクチン不足の心配はなかった。

前年度比：10月+41v、11月+107v、12月-12v、合計+136v

3. インフルエンザワクチンについて

①令和1年度インフルエンザワクチン株（2019/2020冬シーズン）

A/Brisbane（ブリスベン）/02/2018（IVR-190）（H1N1）pdm09：変更

A/Kansas（カンザス）/14/2017（X-327）（H3N2）：変更

B/Phuket（プーケット）/3073/2013（山形系統）

B/Maryland（メリーランド）/15/2016（NYMC BX-69A）（ビクトリア系統）

②厚労省による適切な使用とは

13歳以上の者が接種を受ける場合には医師が特に必要と認める場合を除き「1回注射」であることを周知徹底する。

医師の見解：原則1回接種とするが、患者に接する機会が多い人や医師が必要と認めた場合のみ2回接種とする。

4. ワクチン接種スケジュール表について

健診センターでウィルスの抗体検査が始まり、MR混合、水痘、おたふくかぜワクチン等、複数の生ワクチンの接種希望の問い合わせが入ると考えられたため、患者さんや他のスタッフにも

わかるように接種回数や間隔、ワクチン接種不相当者等の要点まとめたスケジュール表を作成した。

5. 販売中止薬等について

①販売中止薬

(ア) ラニチジン（ザンタック）自主回収について

海外でラニチジンと同剤の原薬から発がん性物質である微量のニトロソジメチルアミン（NDMA）が検出され、自主回収となった。これまでに重篤な健康被害が発生したとの報告はない。出荷再開は未定。

(イ) セフテムカプセル100・200mg：令和2年3月ごろ供給停止になる。

(ウ) インタール点眼液2%、インタール点眼液UD 2%、インタール点鼻液2%（サノフィ）後発品は製造7社、販売9社（ファイザー等）あり、同有効成分の代替品が多数存在するため。

②処方制限解除の薬剤

パルモディア錠0.1mg：6月より長期処方可能。

③ベンゾジアゼピン受容体作動薬（向精神薬）の長期処方による減算について

平成30年度の診療報酬改定で新設された処方料・処方せん料の減算が平成31年4月1日より施行された。

令和元年度の各自治体保険医協会（東京都、大阪府、愛知県等）の解釈では、「同一成分を同一用法・用量で1年以上継続処方」としており、同一成分以外の薬剤に処方を直すと、レセコンエラーは表示されない。

④血圧管理手帳の供給について

従来配布していた持田製薬の血圧手帳が9月ごろに供給停止となる予定。

6. 院内で使用できる薬（職員用ワクチンも含む）の変更・追加について

①アリナミンF50mg注射薬20m×50A

平成30年4月に購入した50A入り1箱が8月末に未開封のまま使用期限を迎える。

9月より在庫薬から削除する。

②内視鏡ブスコパン・グルカゴン注射薬について

心肺停止となる事故が報告されており、内視鏡医師の判断により今後は当院でも使用しないことになった。

③ビタメジン静注用（50V）：21Vは使用、11月末期限切れ、継続購入

④アデホスLコーワ注10mg（50A）、50A（未開封）：11月末期限切れ

一度継続購入はせず、しばらく様子を見ることになったが、12月の委員会で救急時には必要な場合もあるので最少包装で継続購入することになった。

⑤ワソラン静注5mg（10A）：12月末期限切れ、継続購入

⑥アダラートカプセル5mg：使用期限2020年3月、残95Cap（1箱100Cap）

健診で収縮期200mmHgぐらいの人がいると、血圧を下げてから残りの検査を続けていただく。バリウムの検査は180mmHgだとできない。

薬価12.6円/Capであり高価な薬剤ではないので、救急用として在庫する。

⑦院内在庫薬

PL顆粒 ロキソニン錠、SG配合顆粒、インダシン坐剤50mg、フロモックス錠100mg、アダラートカプセル5mg、メチコバル500 μ g(主に健診)、セルタッチテープ70(採血漏れ用)、ミオコールスプレー、リンデロンVG軟膏、エキザルベ

⑧抗インフルエンザウィルス剤の在庫状況(職員用)

リレンザ(吸入薬)とタミフルカプセルの使用期限が令和2年2月に切れる。

予防と備蓄用にはタミフルが適当。引き続き20人分を用意する。

現在の在庫19人分は令和2年2月に期限切れを迎える。希望者への配布は安全衛生委員会を通して行う。

7. ユーアイ薬局移転に伴う案件について:11月25日(月)より移転

はじめはユーアイ薬局が来局者に直接案内していたが、11月25日(月)からは当院で行う。

処方せんお渡しの際に、ユーアイ薬局作成の案内図「新店舗への案内」を配布する。A3サイズの案内も窓口置き、説明する予定。

8. 新たに臨時処方された薬 22件

フルタイド100 μ gエアゾール60吸入用、セレコックス錠200mg、サラカム配合点眼液、トリアン配合錠AP、セディール錠5mg、タクロリムス軟膏0.1%「PP」、ルリコン液1%10ml、ペストロン点眼用0.5%、ジョサマイシン錠200mg、セチロ配合錠、ヘモナーゼ配合錠、カデュエット配合錠2番、エンクラッセ62.5 μ gエリプタ30吸入、セララ錠50mg、フルティフォーム125エアゾール120吸入・56吸入、メネシッド配合錠100mg、ルリコンクリーム1%、ルパフィン錠10mg、ラクリミン点眼液0.05%、ヒドロクロロチアジドOD錠12.5mg、セレベント50ディスカス50 μ g60ブリスター、ジクロフェナクNaクリーム1%

安全衛生・環境整備委員会

■ 恒常的活動

1. 安全衛生

- ①健康管理:職員の定期健康診断、当診療所および他院の外来受診状況から、職員の健康管理を行った。安全衛生教育および安全衛生情報の提供を実施した。また、ストレスチェックを実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症に対し、予防の観点から助言を行った。
 - ②労務管理:産前後休や時短状況および超過勤務状況から労務管理状況を把握し、必要であれば職員個人および部門に改善を求めた。
 - ③労働環境衛生:職場巡視等を実施して労働環境整備に関する助言を行った。
 - ④防災:東日本大震災および熊本地震の教訓から、防災グッズの更新・新規購入と保管先について確認した。
- ①~④により、職員が健康で安全に働ける職場作りを目指した。

2. 環境整備

- ①職場巡視により、利用者目線での施設・設備について、特にハード面での補修・改善、工事の

必要性に関して事務局に提案した。

- ②労働環境測定結果を定期的に報告し、冷暖房の効きがよくない場所については扇風機、暖房器具による対応を促した。
- ③施設利用状況に対する職員の指摘メモ（CSメモ：customer satisfaction）、当健診センターおよび診療所利用者の声（ご意見箱アンケート等）をもとに事実関係を各部門に報告して改善を促した。
- ④定期的な掲示物のチェックと受診者用図書ならびに医療関係ビデオの管理を行った。
- ①～④により、結果として利用者が安心・信頼できる組織・施設作りを目指した。

■今年度の特性

1. 安全衛生

- 今年度も定期健康診断時に、昨年に引き続き腫瘍マーカーの測定、希望者に乳腺エコー検査を実施した。定期健康診断の結果については、全体的には職員の健康状態はおおむね良好で、重大疾患や事故・労災の発生を認めなかった。
- 労務管理上、超過勤務は少なく、それに伴う健康被害も認めなかった。
- 夏期に多い細菌性食中毒、夏かぜ、熱中症と冬期に多いインフルエンザ、ノロウイルスへの予防と体調管理、冬から春に多い季節性アレルギー疾患についての情報提供と対策を報告した。また、国内における麻疹、風疹の局地的流行について注意を促した。
希望者に無償でインフルエンザワクチンの接種（38名）とインフルエンザ予防薬の配布（希望者なし）を実施した。今年度は、インフルエンザワクチンの不足はなく、希望者（7名）に2回接種とした。さらに、今年度は新型コロナウイルス感染症についての情報提供と予防対策について助言し、診療所入口に新型コロナウイルス感染症の疑いがある受診者への対応策を掲示した。
- ストレスチェックを9月に実施した。
対象40名、受検者38名（95%）、高ストレス者6名（医師面談希望者なし）。
全国平均に比べ、当事業団のストレス値は低かった。なお、高ストレス者は多い傾向がみられた（例年は2～3名）。
- 職場巡視の際に防火防災対象物点検を実施した。
防災食品（パン）、飲料水、災害時トイレ、毛布などはこれまでどおり保存してある。

2. 環境整備

- 巡視については、安心感と清潔感のある医療施設を目指して実施した。
耐震関連については対応が進んでいることを確認した。労働環境測定（温湿度、気流、二酸化炭素、浮遊粉じんなど）は当ビルの管理会社が定期的実施し、問題はなかった。局所的に暑いところは扇風機で対応、冬期の乾燥時期には加湿器を使用した。
- CSメモ（3件）、ご意見箱アンケート（7件）を参考に、受診者目線での医療サービスと環境整備を目指した。この点については、眼底検査標示の改善があげられる。また、医療事故防止のために、事故防止委員会と連携している。

○受診者用書籍と健診センターのビデオ内容（禁煙関係）の充実を図った。掲示物管理として、糖尿病教室、生活習慣病セミナーの案内、風疹、医師会のがん検診のポスター、当事業団の記事などを掲示した。また、診療所入口に新型コロナウイルス感染症の疑いがある受診者への対応策を掲示した。

次年度の目標として、CSメモの充実と改正労働安全衛生法に基づくストレスチェック、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供と対応を継続する。

研究・研修・図書委員会

1. 委員会活動

- 4月 職員研究課題報告会
- 5月 職員研究課題報告会総評 水野常務理事
子宮頸部細胞診について (株)東京セントラルパソロジーラボラトリー 本郷氏
- 6月 CKDについて 日本医科大学腎臓内科 酒井行直准教授
- 7月 ストレスチェックについて SOMPOヘルスサポート(株) 黒田氏
- 9月 心房細動について 日本医科大学循環器内科 岩崎雄樹先生
- 10月 働き方改革について 東京都医療勤務環境改善支援センター 三好章樹氏
- 11月 リハビリについて 高崎健康福祉大学 福間長知教授
- 12月 ストレスチェックの報告 船津医師
個人情報について SOMPOリスクマネジメント 星野智史氏

2020年

- 1月 事故防止委員会 山下委員長、各委員
- 2月 (3月) 事業団方針所長方針 水野常務理事、笹岡常務理事、山下所長
- 3月 中止

職員講習会は医学・医療の知識の向上と、医療を行っていくうえで一般的に必要なとされる知識の習得を目的とし、毎月開催されているが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため3月は中止せざるをえなかった。次年度の講習会開催もいつから開始するか未定である。

今回特筆すべきことは職員研究課題報告会で発表した内容を学会で報告したことである。

丸田陽子 「服薬アドヒアランスと効果の検討」総合健診医学会にて発表、令和2年2月7～8日、東京

2. 図書

購入図書の整理など

新型コロナウイルス感染症が蔓延している間は密集となりがちな職員研修会は開催し難い。流行が早期に収束することを期待したい。